

大阪文化財センター調査報告 XVI

# 美原町真福寺所在遺跡試掘調査 報告書

昭和50年10月

財団法人 大阪文化財センター

は し が き

財団法人 大阪文化財センター  
理事長 加藤三之雄

真福寺遺跡の所在する南河内郡美原町は、大阪府下ではめずらしいほど遺跡の分布密度が粗な地域であります。しかしながら、この地は東に古市誉田古墳群、北に西大塚古墳、雄略天皇陵、南西に黒姫山古墳が存在し、古代の一時期には、その中心に近い地域として人々の生活の舞台であったであろうことは、推察にかたくないところであります。

今回の調査は、この様な遺跡の空白地帯に一筋の鍬を入れた様なものであります。発見された遺物や、遺構から、この様な地域にも古代の人々が生活していたことが明らかとなりました。したがって、府下に於いて、同じ様に遺跡の分布密度が粗い地域も、美原町同様に遺跡の存在する可能性は充分にあると考えねばなりません。

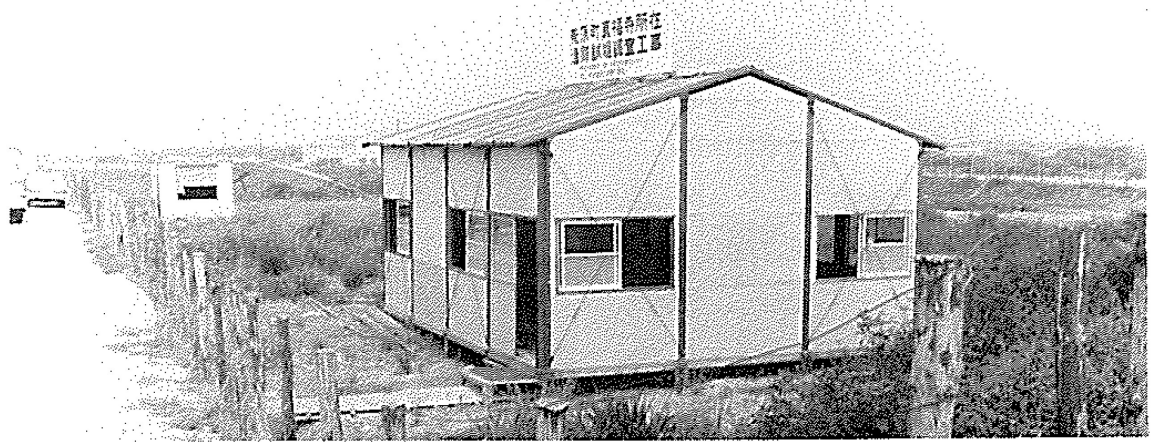
これらの文化財が正しく理解され、我々の子々孫々にまで受け継がれていくことが必要だと考えます。

今回発見された真福寺遺跡が、今後の美原町に於ける埋蔵文化財の把握の一助になることを望むとともに、調査に関係した人々の苦勞に対して深く感謝する次第です。

昭和50年10月

## 例 言

- 1) 本冊子は、大阪府特定街路建設事務所の委託を受けて、財団法人大阪文化財センターが実施した都市計画道路松原～泉大津線建設予定地内美原町所在真福寺遺跡試掘調査報告書である。
- 2) 調査に要した経費（¥12,066,680.-）は全て大阪府が負担した。
- 3) 調査は、財団法人大阪文化財センター業務課調査室が担当し、昭和50年7月28日から、昭和50年9月17日迄の間現地に於ける試掘調査を実施し、その後、10月11日迄の間に総括的な整理作業を実施した。
- 4) 現地に於ける調査は、調査室長中西靖人の指示のもと、調査主任国乗和雄が担当し、杉本二郎(立命館大学OB)、寺川史郎(京都産業大学OB)、西村英利(法政大学OB)、山崎 博(立命館大学学生)の諸氏が調査員として、また藤田輝夫、河合一彦の諸君が調査補助員として積極的に参加した。  
また出土遺物の整理、図面の整理等は、国乗和雄、寺川史郎が中心となっ  
て行ない、朝井文子、藤田輝夫がこれを助けた。
- 5) 本冊子の執筆は、中西靖人、国乗和雄が分担し、図版は寺川史郎、山崎博、朝井文子がこれに当った。また普及資料室長の福岡澄男氏には、助言をいただいた。
- 6) 調査に際しては、大阪府土木部道路課の関係各位、および大阪府特定街路建設事務所の関係各位に多大の援助を受けた。記して感謝する。



第1図 調査関係者詰所及び標識

## 目 次

はしがき

例 言

〔Ⅰ〕 調査に至る経過.....	1
〔Ⅱ〕 位置と環境.....	2
〔Ⅲ〕 調査の結果.....	2
〔Ⅳ〕 まとめ.....	10

## 〔I〕 調査に至る経過

今回、調査の対象となった地域は、南河内郡美原町真福寺に所在する都市計画道路松原～泉大津線建設予定地である。

従来、この地域は、史跡黒姫山古墳と、その陪塚としてのさる山古墳、さば古墳、府の史跡としての丹比廢寺跡、黒山寺跡等が知られている程度の極めて埋蔵文化財分布の粗な地域であった。

しかしながら、昭和48年、大阪府教育委員会によって、大阪府立高校建設予定地としての同町平尾に大規模な遺跡の存在することが確認され、さらにこの平尾遺跡が2年間にわたって調査されたことから、この遺跡分布の粗な地域にも、周知されていないこれら埋蔵文化財が他にも存在する可能性が極めて強いと考えられる様になってきた。

この様な事情を背景に、今回の松原～泉大津線建設予定地についても、あらかじめ大阪府教育委員会と財団法人大阪文化財センターは、遺物の散布等、遺跡の可能性のある地域が存在するか否かを分布調査した結果、今回の調査対象地一帯に、古代の須恵器、土師器、瓦、瓦器等が散布していることが明らかとなったのである。

これにより、大阪府教育委員会は、大阪府土木部道路課と、工事についての協議をした結果、これら遺物の散布する地域は、遺跡である可能性が極めて強いことから、工事着工に先立って、試掘調査を実施する必要があること、及びそれらの調査は財団法人大阪文化財センターが実施することが適当であろうとの結論に達したのである。

これによって、大阪府土木部道路課は、昭和50年7月22日付をもって財団法人大阪文化財センターに対して試掘調査を依頼し、協議の結果、昭和50年7月26日付をもって両者は受託契約を締結し、財団法人大阪文化財センターは、昭和50年7月28日より現地に於ける調査に着手したのである。

## 〔Ⅱ〕位置と環境

南河内郡美原町真福寺の地は、近鉄南大阪線河内松原駅より南へ約2.5kmにある。

羽曳野丘陵の西麓を流れる東除川と、狭山池から流れる西除川の間に挟まれた台地上に位置し、周辺には、いたる所に灌漑用のため池が存在し、大阪府下としては比較的落ち着いた田園風景を残している。

時をさかのぼって、この地周辺を見てみると、東には羽曳野市古市を中心とする古市營田古墳群、古市郡衙跡と考えられている營田白鳥遺跡等が存在し、北には雄略天皇陵や、西大塚古墳が存在し、また南西約1kmの下黒山の地には、史跡黒姫山古墳、及びその陪塚としてのさる山古墳、さぼ山古墳が存在する。さらに南東約1.5kmの同町多治井には、大阪府指定史跡として有名な丹比麿寺跡が存在する。また最近、同町平尾で発見された古墳時代から奈良時代にかけての一大集落遺跡（平尾遺跡）は、そのまとまりのよさから、一躍注目されるにいたっている。

この様に見て来ると、これら周辺の地は古墳時代以降に人々の生活の場となったことは確実である。しかしながら、東と西に川が存在し、比較的平坦な台地であるこの地が、それ以前にも人々の生活の舞台であった可能性は十分に考えられるところである。

## 〔Ⅲ〕調査の結果

試掘調査地域は大和川支流の東除川と西除川にはさまれた洪積台地上に位置し、標高約42～43mの平坦地で、現状は休耕田となっている。トレンチは都市計画道路松原～泉大津線の西端、中央、東端に設けたが、西端は幅5m、総延長約160m、中央には幅2m、総延長約185m、東端では幅5m、総延長約345mのトレンチを設定した。

### 〈第1-1トレンチ〉

このトレンチは調査地域の北西端にあたり、耕土（厚さ約20cm）下、約25cmにわたり、遺物の包含が認められた。なお包含層は灰色砂土、黄褐色粘質砂土、

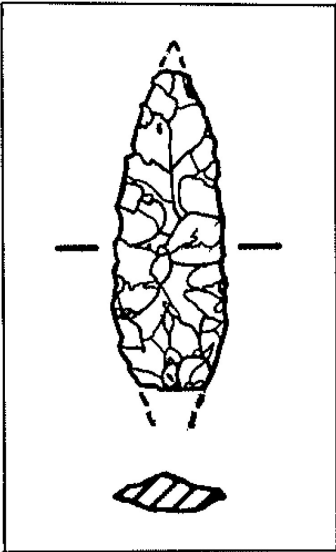
灰茶色粘質砂土の3層からなり、また遺構は確認できなかった。出土遺物は下記の通りである。

第1-1トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	平安時代	細片のみ
瓦、陶器	不明	小片

〈第1-2トレンチ〉

このトレンチは幅5m、長さ約120mの長大なもので、耕土の厚さは20~30cm、その下層約30~35cmの幅で遺物包含層がみられた。遺物は広範囲な時期、種類がみられ、土器は磨滅の度合いが高い。また遺物の総量は、コンテナ箱約1杯である。遺構については、溝状のものが7本ほどみられたが、北端の3本のみから遺物が出土した。この3本の溝状遺構の深さは地山面から各々約70cmで、溝3.2.1.の順でつくられたと思われるが、出土遺物を比較してみると時代的な差はみられないことから溝のつくられた年代は平安時代以降と考えられる。



石鏃実側図

第1-2トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
石鏃、フレーク	縄文時代~弥生時代	サヌカイト製
須恵器	古墳時代~平安時代	甕、壺、鉢など
土師器	奈良時代~中世	土釜など小片
瓦器	平安時代~鎌倉時代	碗、小皿等
青磁	中国宋代	蓮弁碗小片
その他		瓦、瓦罎、灰釉陶、常滑、窯壁小片
<b>溝 1</b>		
フレーク	不明	風化激しい
須恵器	古墳時代~平安時代	小片
土師器	不明	細片
その他		瓦器、平瓦、鉄器片、窯壁小片
<b>溝 2. 3</b>		
須恵器	古墳時代~平安時代	小片
土師器	不明	細片

### 〈第1-3トレンチ〉

第1トレンチの南西端に位置するこのトレンチは、耕土（約10～20cm）下において約20～30cmの厚さで包含層が存在する。包含層名は、上から茶褐色砂質土、灰茶色砂質土、黄褐色粘質砂土に分れ、地山は多量に礫を含む灰茶色砂土である。遺構は浅い溝がみられるだけで、溝内の出土遺物はトレンチ内より検出したものと時期的な差は認められない。

#### 第1-3トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	奈良時代～平安時代	坏、壺、瓶等
土師器	奈良時代	壺
青磁	中国宋代	碗
その他		瓦器、瓦、中世陶器
<b>溝</b>		
須恵器	奈良時代	坏、その他
その他		土師器、瓦器細片

### 〈第2-0トレンチ〉

長さ約55m、幅5mのこのトレンチは、調査地域の北東端にあたり、耕土層は10～20cm、その下約20～30cmにわたって包含層がみられた。このトレンチにおける、遺物の特徴は、他のトレンチではみられなかった黒色土器が遺構から出土したということである。その他の土器は古墳時代以降の様々なものが検出された。遺構は、数個のピットが検出され、そのうちの一部からは、土師器、須恵器の細片が検出された。また前述の黒色土器が、須恵器、土師器などを伴って浅い落込みと土壌より出土した。

#### 第2-0トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	壺、甕、坏、鉢等
土師器	奈良時代以降	壺、羽釜、坏、釜等
瓦器	平安以降	土釜、小皿、碗
青磁	中国宋代	蓮弁碗、皿
その他		平瓦、中世陶器、窯壁
<b>落込み</b>		
須恵器	奈良時代か	壺、甕



土 師 器	奈 良 時 代	壺
黒 色 土 器	平 安 時 代	碗
そ の 他		窯壁
土 壙		
須 恵 器	古墳時代～平安時代	坏、甕
土 師 器	平 安 時 代	壺、土釜、皿等
黒 色 土 器	々	碗



第2図 発掘作業風景

### 〈第2-1トレンチ〉

このトレンチは水路にはさまれた一角にあり、地層は耕土が20～25cm堆積し、その下に約25～30cmの厚さで包含層がみられた。また遺構は、南端に深さ約35cmの落込みが検出された。

#### 第2-1トレンチ出土遺物

遺 物	時 代	形 状 ・ そ の 他
須 恵 器	奈良時代～平安時代	坏等
土 師 器	不 明	土釜、その他細片
埴 輪	5 世 紀	円筒
瓦 器	鎌 倉 時 代 ～	小皿、坏
瓦	不 明	三つ巴軒丸瓦
青 磁	中 国 宋 代	碗

### 〈第2-2トレンチ〉

全長約95m、耕土層は約10～20cmの厚さで、包含層は他のトレンチと比較してやや薄く耕土層下、約10～20cmの堆積をしている。出土遺物は、古墳時代以

降における各々の時代のものが検出された。遺構は2-1トレンチの落込みに続くと考えられる落込みが北端で検出された。その他、ピットと溝状遺構が若干みられたが、出土遺物は土器が小片のうえ磨滅が著しく各々の遺構のつくられた年代は知ることができなかった。

### 第2-2トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	高坏、平瓶、坏、甕等
土師器	奈良時代～	把手付鍋、羽釜、灯明皿
瓦	平安時代～鎌倉時代	碗、小皿
埴輪	5世紀	円筒
青磁	中国宋代	碗、皿
その他		中世陶器、瓦、窯壁等
<b>落込み</b>		
須恵器	平安時代	甕、瓶子
土師器	不明	灯明皿等
瓦	平安時代～鎌倉時代	小片のみ
青磁	中国宋代	蓮弁碗
その他		中世陶器
<b>ピット 1</b>		
須恵器	不明	細片 1片
土師器	〃	細片 2片
白磁	中国宋代	碗
<b>溝 1</b>		
土師器	不明	小片
<b>溝 2</b>		
瓦	不明	小片
<b>溝 3</b>		
瓦	不明	小片
<b>溝 4</b>		
須恵器	不明	小片
土師器	〃	〃
瓦	〃	〃

### <第2-3トレンチ>

耕土（厚さ約20cm）下、平均約20cm堆積する赤褐色粘質土と灰茶色粘質砂土が包含層として存在する。遺物は下記の表の通り、他のトレンチと同様に各時代、多種の遺物が検出された。また遺構は検出されなかった。

## 第2-3トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、甕、壺、片口鉢等
土師器	不明	土釜等小片
瓦	平安時代～鎌倉時代	細片少量
青白磁	中国宋代	碗
その他		瓦、中世陶器、窯壁

## 〈第2-4トレンチ〉

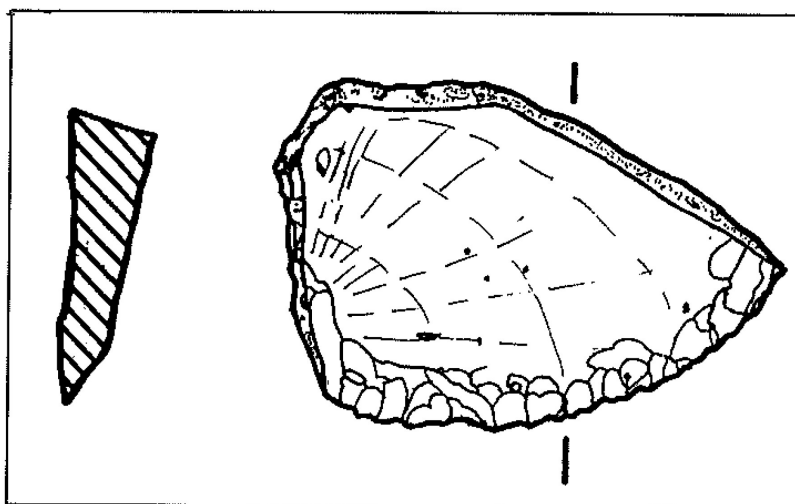
水道路と畦にはさまれたこの小さな三角形のトレンチは耕土が約20cm、その下に黄褐色粘土と灰茶色粘質砂土からなる包含層が検出された。出土土器は、他のトレンチから検出されたものとほぼ同様のものが認められ、遺構については、ごく浅い溝が検出されたにとどまった。

## 第2-4トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、その他
土師器	不明	土釜の小片
瓦	平安時代～鎌倉時代	小片
青磁	不明	碗
その他		瓦、近世陶器

## 〈第3トレンチ〉

水道路より南西のこのトレンチは、トレンチ南端より黒姫山古墳まで、わずかに約500mの距離である。また第2トレンチと同様に幅は5mで、全長約115mである。耕土（平均15～25cm）下、約20～30cmの包含層が認められた。



スクレーパー実測図

包含層は、主として黄褐色粘土と灰茶色粘質砂土からなり、遺物は下記の通り多様である。遺構は、北端に3個のピットと浅い落込みがみられたが、前者

はピット内の土質から後世の柱穴かと思われ、また後者は6世紀代の坏が検出されたが、発掘中の雨によるトレンチ水没などで消滅し、平面図には書き入れることができなかった。

### 第3トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、壺、片口鉢、皿、瓶子等
土師器	古墳時代～平安時代	甕、灯明皿、羽釜、坏、蛸壺
埴輪	5世紀	円筒数片
瓦器	鎌倉時代～	碗、鉢
白磁	中国宋代	碗
石鏝、スクレーパー	縄交時代～弥生時代	サヌカイト製
その他		瓦、中世陶器、窯壁等

### 〈第4-1トレンチ〉

このトレンチは、計画道路の中央部北端に位置し、幅2m、長さは約60mである。耕土が約10cm堆積し、それに続いて包含層が茶色砂質土を基層として、平均約20～25cm堆積する。出土遺物は、他のトレンチで検出されたものと同様であり、遺構としては溝状遺構が5、ピットが若干みられるが、一番南の溝でのみ遺物が検出された。なお1-2トレンチにおける北端の溝群がまっすぐ伸びてきているとすれば、このトレンチで検出できたと思われるが、1-2トレンチとは地山を比較した場合も相当異なり、検出できなかった。

### 第4-1トレンチ出土遺物

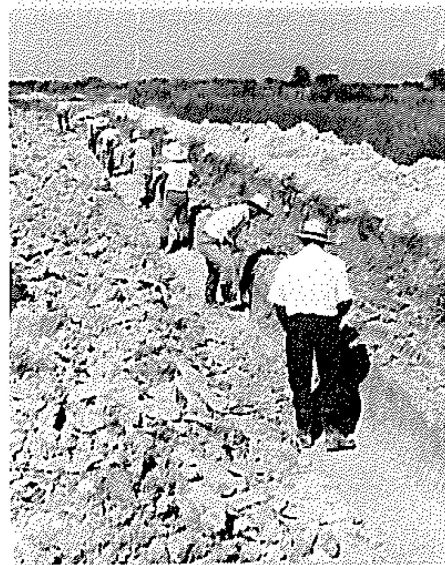
遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、壺、片口鉢、甕等
土師器	不明	小片
青磁	中国宋代	皿、碗
白磁	不明	小片
灰釉陶	平安時代か	坏の小片
その他		中世陶器、瓦、窯壁

### 〈第4-2トレンチ〉

耕土層（厚さ約10～20cm）の下に包含層がみられた。包含層は4-1トレンチと同様に茶色砂質土を基層に、約20～30cm堆積している。

検出された土器も4-1トレンチと同様である。遺構は、数個のピット

が検出されたが、遺物はみられなかった。



第3図 下層試掘作業風景

#### 第4-2トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、壺、甕、瓶等
土師器	平安時代以降	碗、土釜、坏
瓦器	平安時代～鎌倉時代	碗、その他
フレーク	不明	サヌカイト、風化が激しい
その他		中世陶器、瓦

#### 〈第4-3トレンチ〉

第4トレンチの南端にあたるこのトレンチも、前述の4-1、4-2トレンチと全てにおいてほとんど変わったところがみられない。

耕土層が約20～25cmの厚みを持ち堆積し、その下層が約20cmの包含層である。遺物は、前トレンチと同様、古墳時代から中世にまで渡っている。遺構は溝状のものが3条検出されたが、遺物はみられなかった。

#### 第4-3トレンチ出土遺物

遺物	時代	形状・その他
須恵器	古墳時代～平安時代	坏、壺、甕、等
土師器	奈良時代～中世	羽釜、土釜
瓦器	平安時代以降	碗、その他
その他		中世陶器、鉄製品

## 〔Ⅳ〕まとめ

今回の調査は、美原町真福寺一帯に散布が認められる古代遺物が、はたして遺構を伴うものか、さらに当該計画道路の建設が、これらの遺跡の破壊につながらないか否かを決定するものであった。

調査の結果によれば、当該遺跡に於ける出土遺物は縄文時代～弥生時代にかかる石器類の他は、すべて古墳時代から近世までの土器、陶器が主体をなし、瓦も少量ではあるが、全面に認められる。遺構としては、小規模な柱穴と、溝がその主体をなし、性格等不明な点も多いが、瓦および平安～鎌倉期の遺物が多いことと、字名が真福寺と言うこと等を考え合わせて、平安～鎌倉期に寺が存在した可能性が十分に考えられる。ちなみに平安遺文・5055、佐伯景弘持経者注進状の中に、河内国丹南郡里山長和寺、同国丹北郡松原法源寺、同国同郡松原大臣寺、同国丹南郡里山学音寺、同国同郡同郷花林寺、同国同郡同郷薬師寺との記があり、もし里山が黒山の誤りであるとすると、黒山近辺に4つの寺が存在したことになり、これら4つの寺のいずれかが、真福寺の地に実在した可能性は極めて強い。

さらに、遺物に混って出土したものに窯壁がある。この窯壁は、スサ入りであり、表面ガラス状になっているものも存在するところから、すくなくとも須恵器以上の焼成温度を必要とする窯のものであったと思われ、この様な高温焼成窯が、この付近にあったであろうことが推測される。

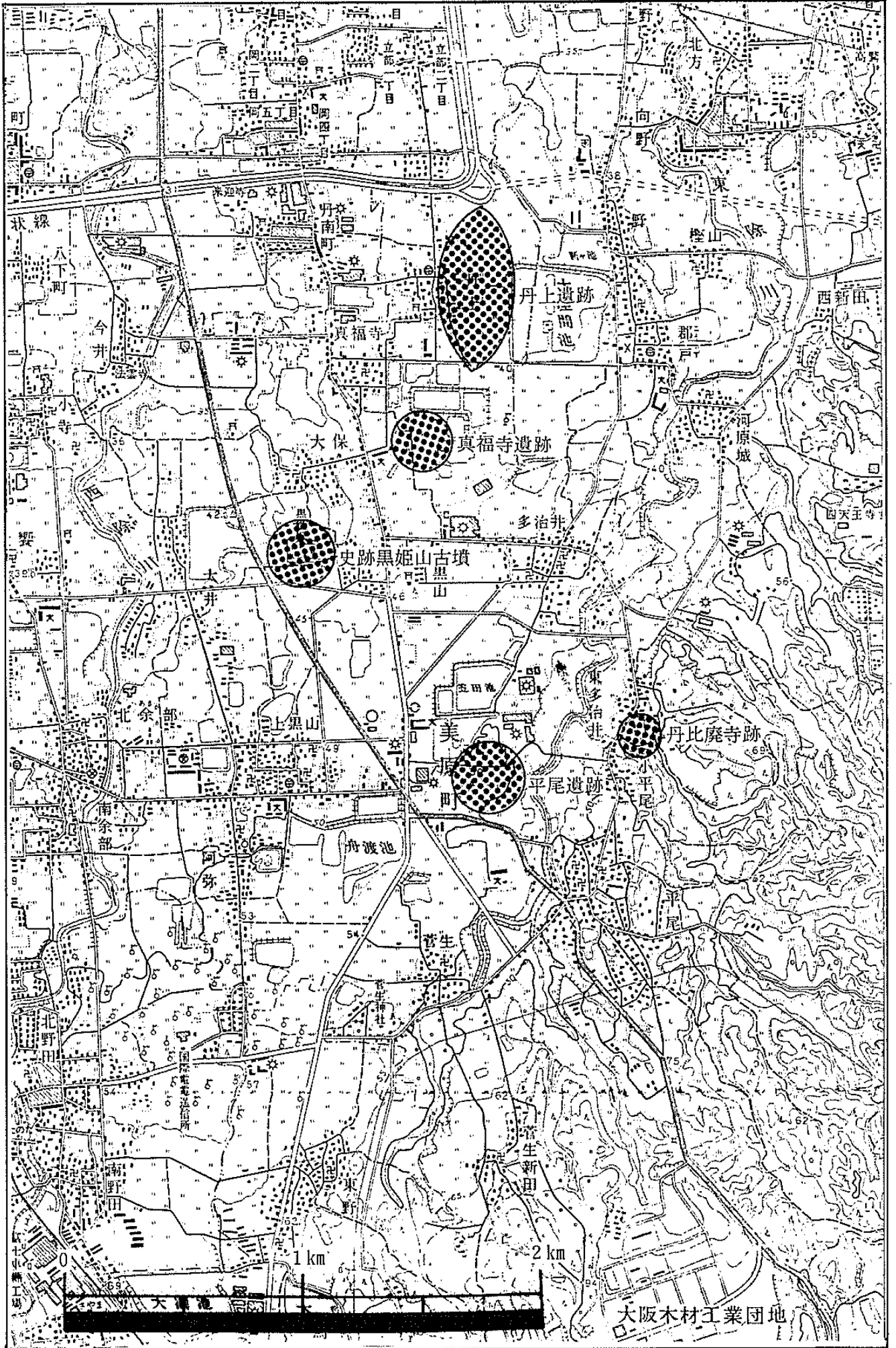
つぎに平安末期、鎌倉以降の、中世土器群の種類多様さは、中世社会の経済流通の発展を如実にものがたるものである。本遺跡でも畿内産の土師器、黒色土器、瓦器等の他に、常滑や備前産の陶器類、中国南方産の同安窯や龍泉窯系の青磁類がみられた。本遺跡の場合、数的操作をしうるほどまとまった資料ではなかったが、各地の遺跡での、各種土器群の構成比率は興味のあるところである。現在のところそうした報告例を知らないが、畿内村落の場合、常滑等国内大古窯の製品と中国製陶磁の比率は、それほどかわらないか、時には後者の方が多い場合もあるのではないかとの感じをもっている。これは我が国中世窯の生産力、流通の問題とも深く関連する問題であり、今後の調査、検討を要

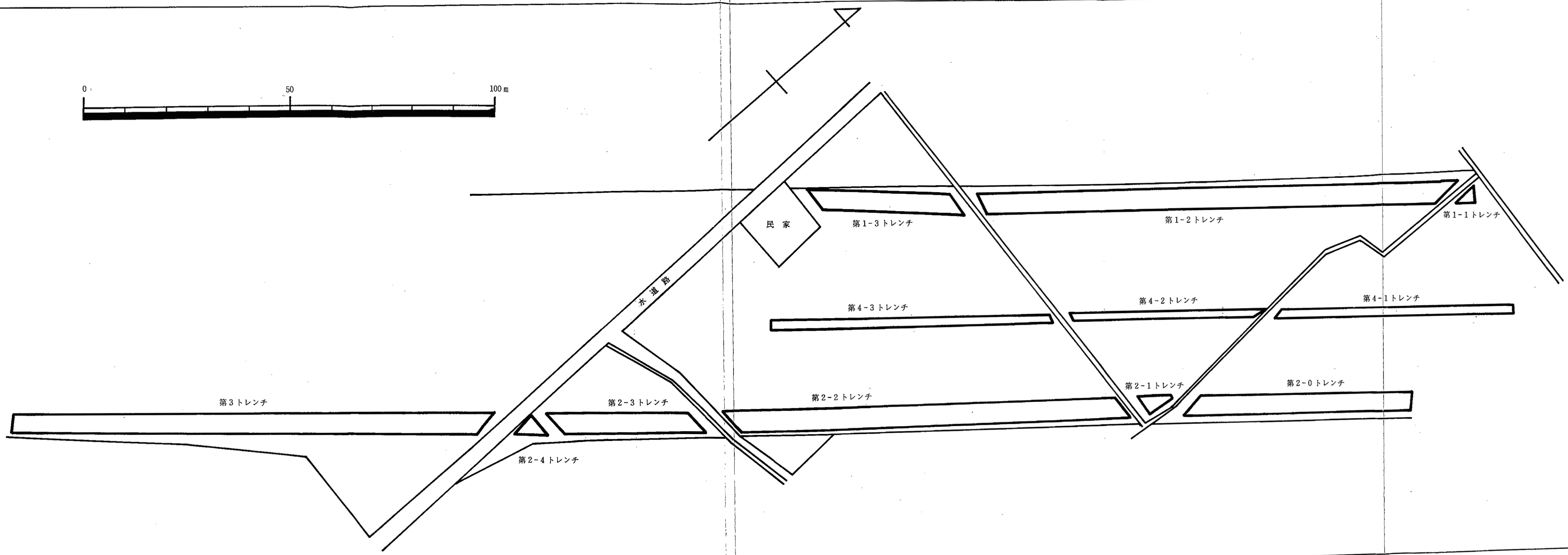
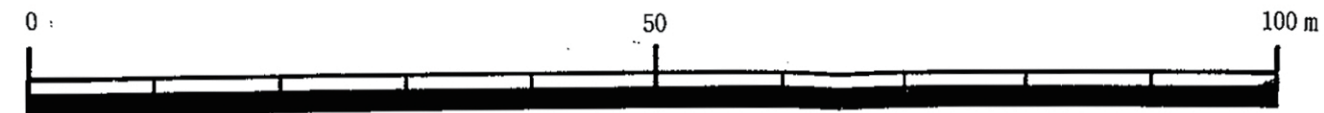
すべきことのように思われる。

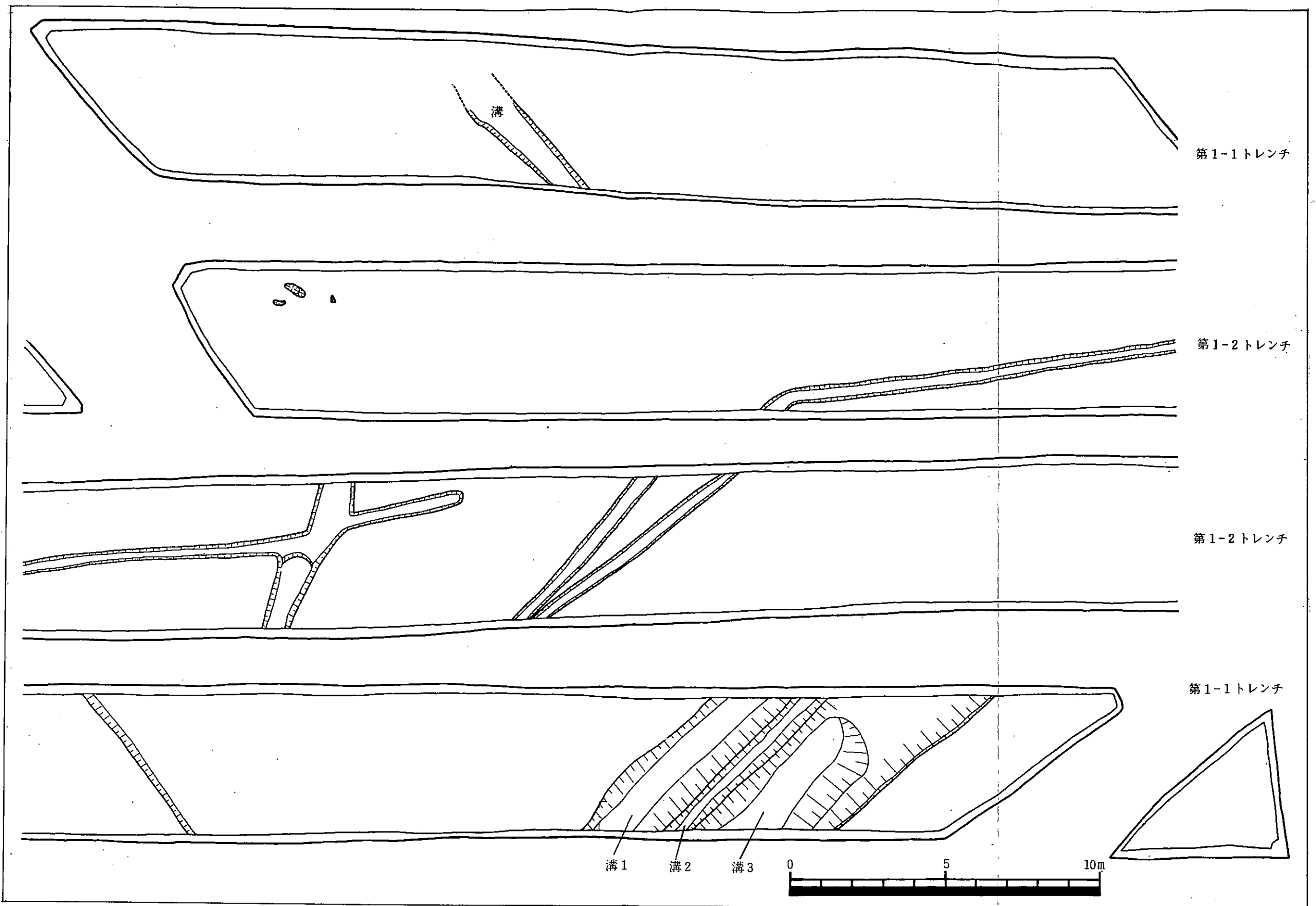
最後に、当該予定道路敷は、先述のとおりすべて遺物が認められる遺跡であることから、今後の道路建設は慎重に行なわれなければならないことはいうまでもなく、不明な点の多い当該遺跡の計画的な研究及び保護、保存対策が望まれる次第である。

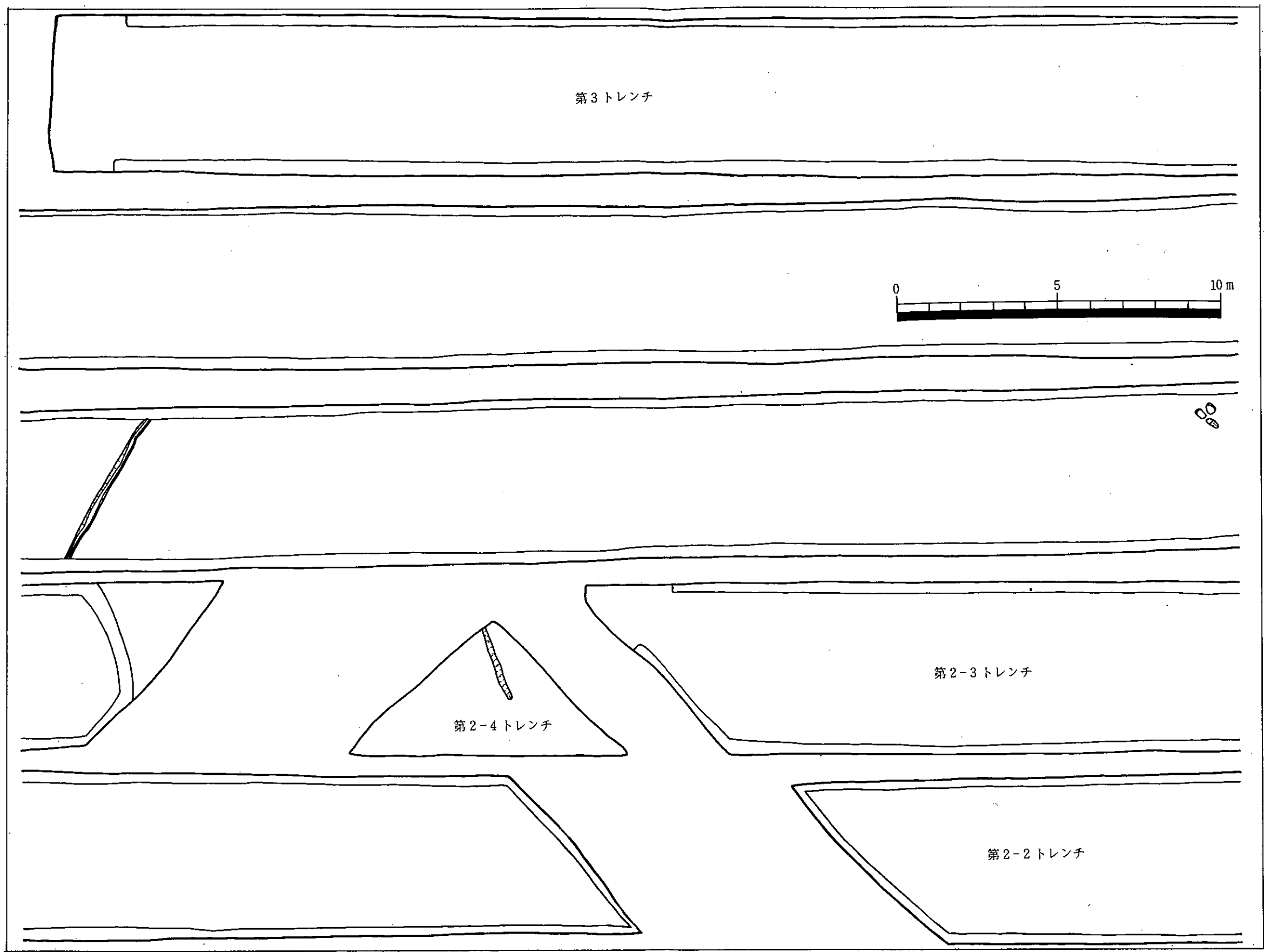
# 圖 版

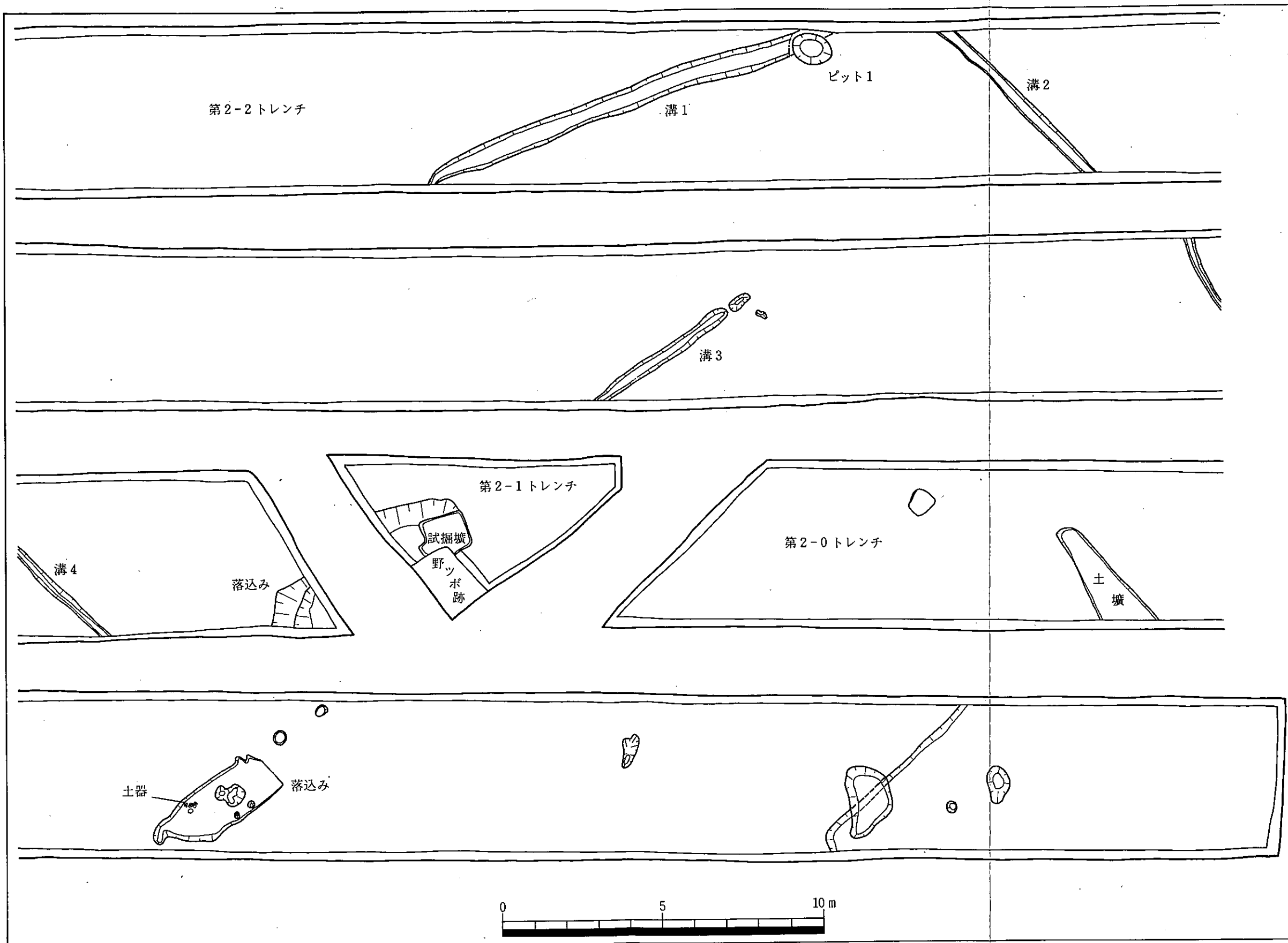


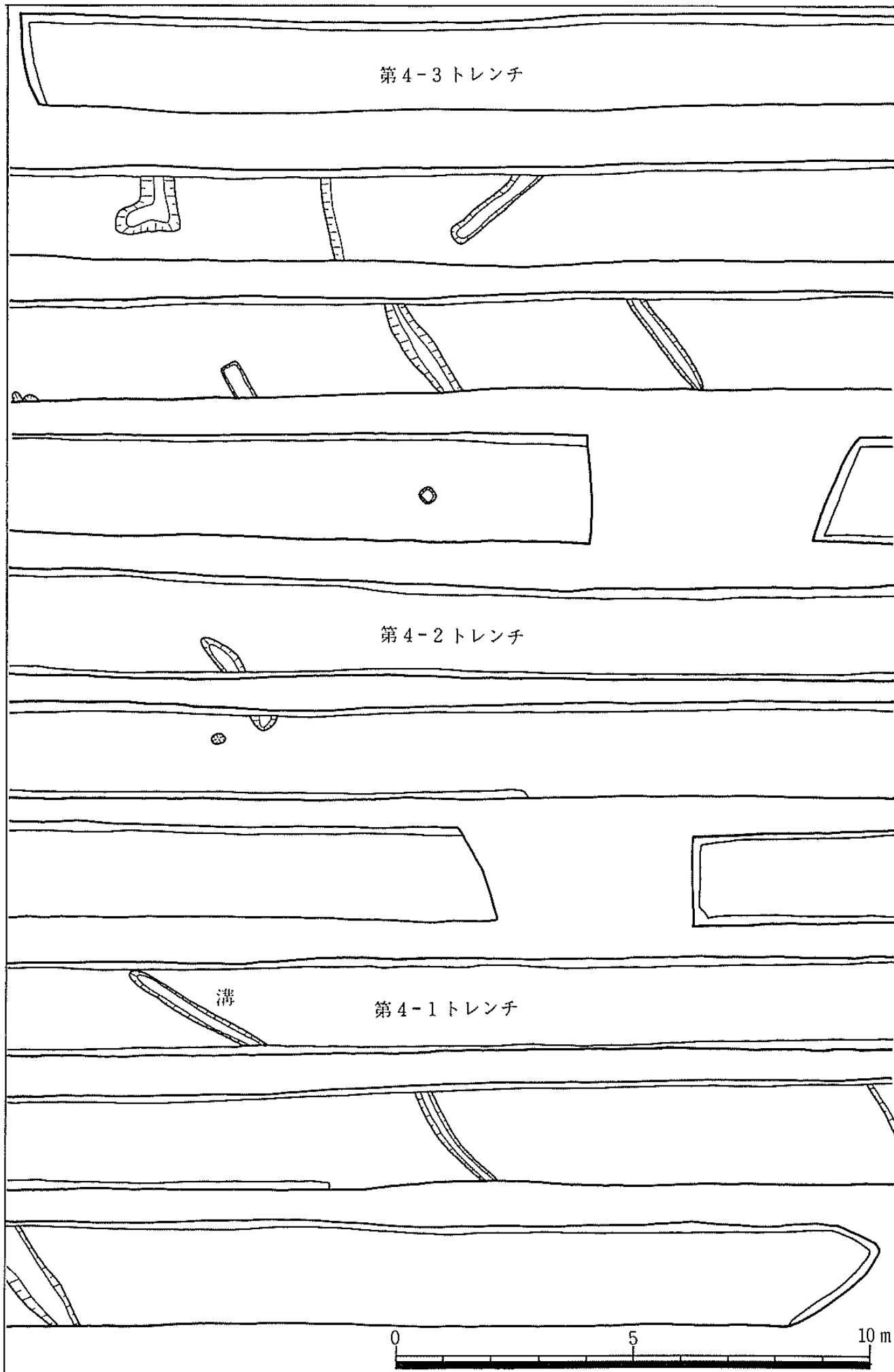


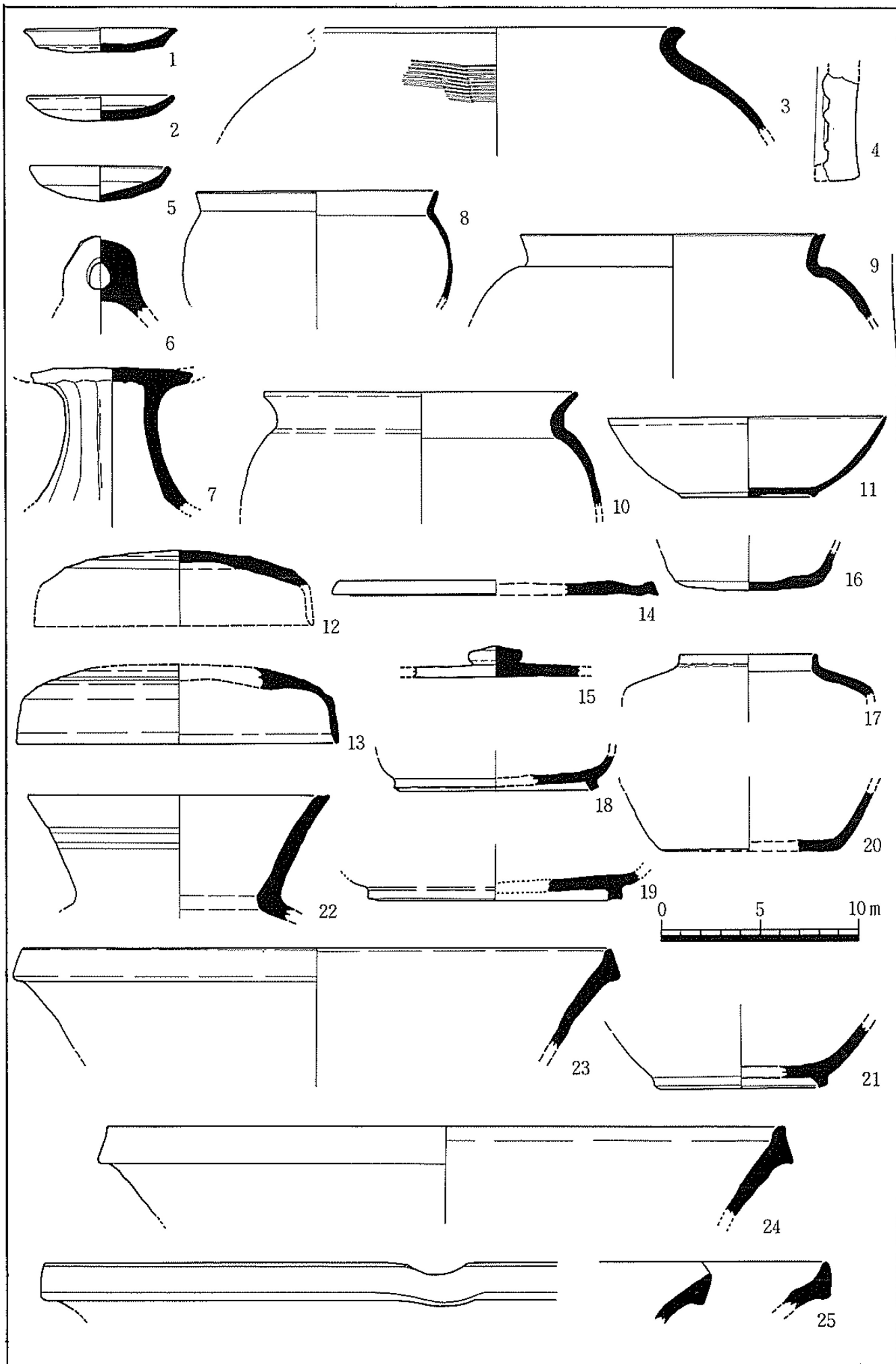












瓦器 (1~3) 瓦 (4) 土師器 (5~10) 黑色土器 (11) 須恵器 (12~25)



第1トレンチ北端の溝



第1トレンチ

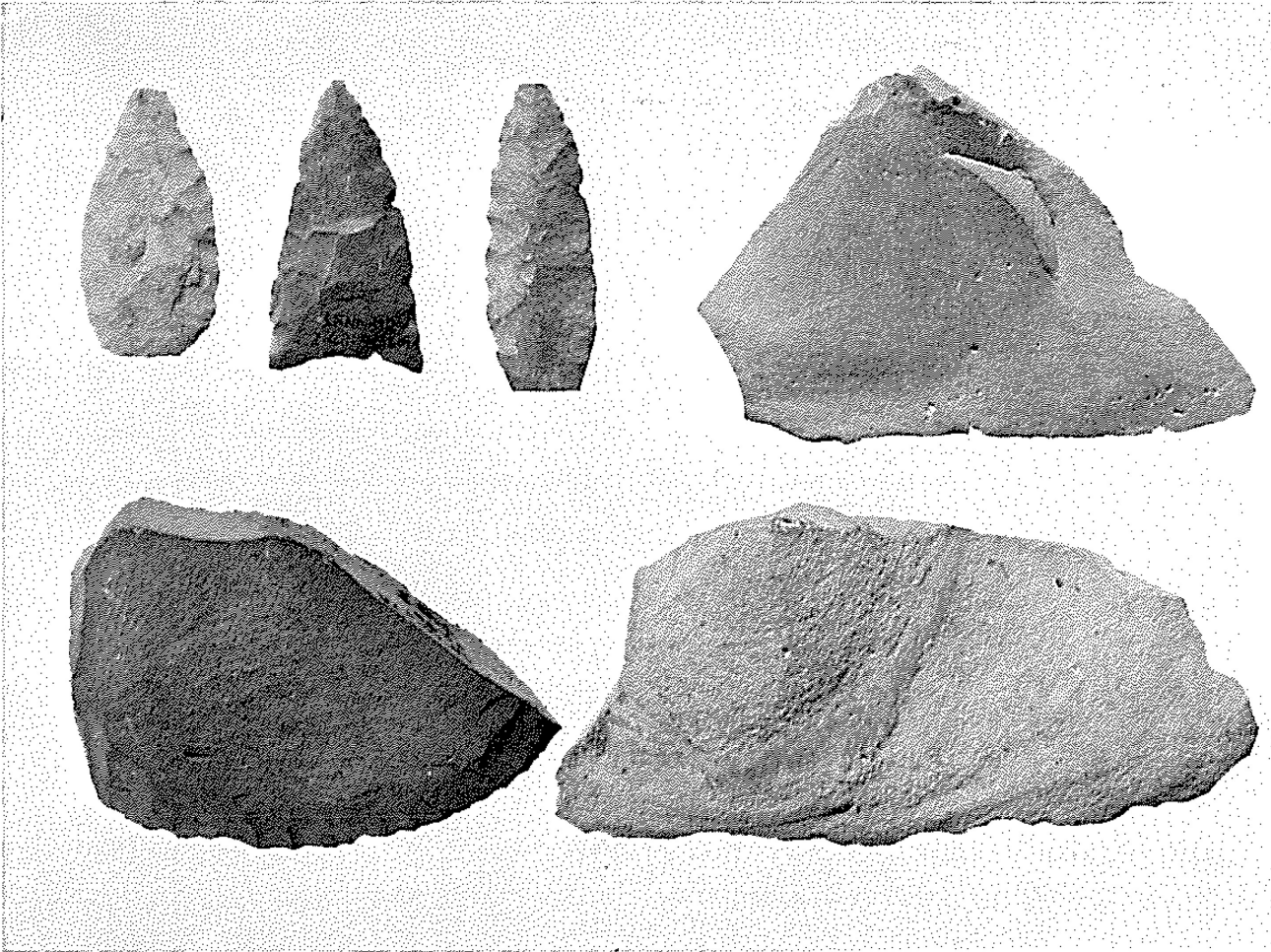




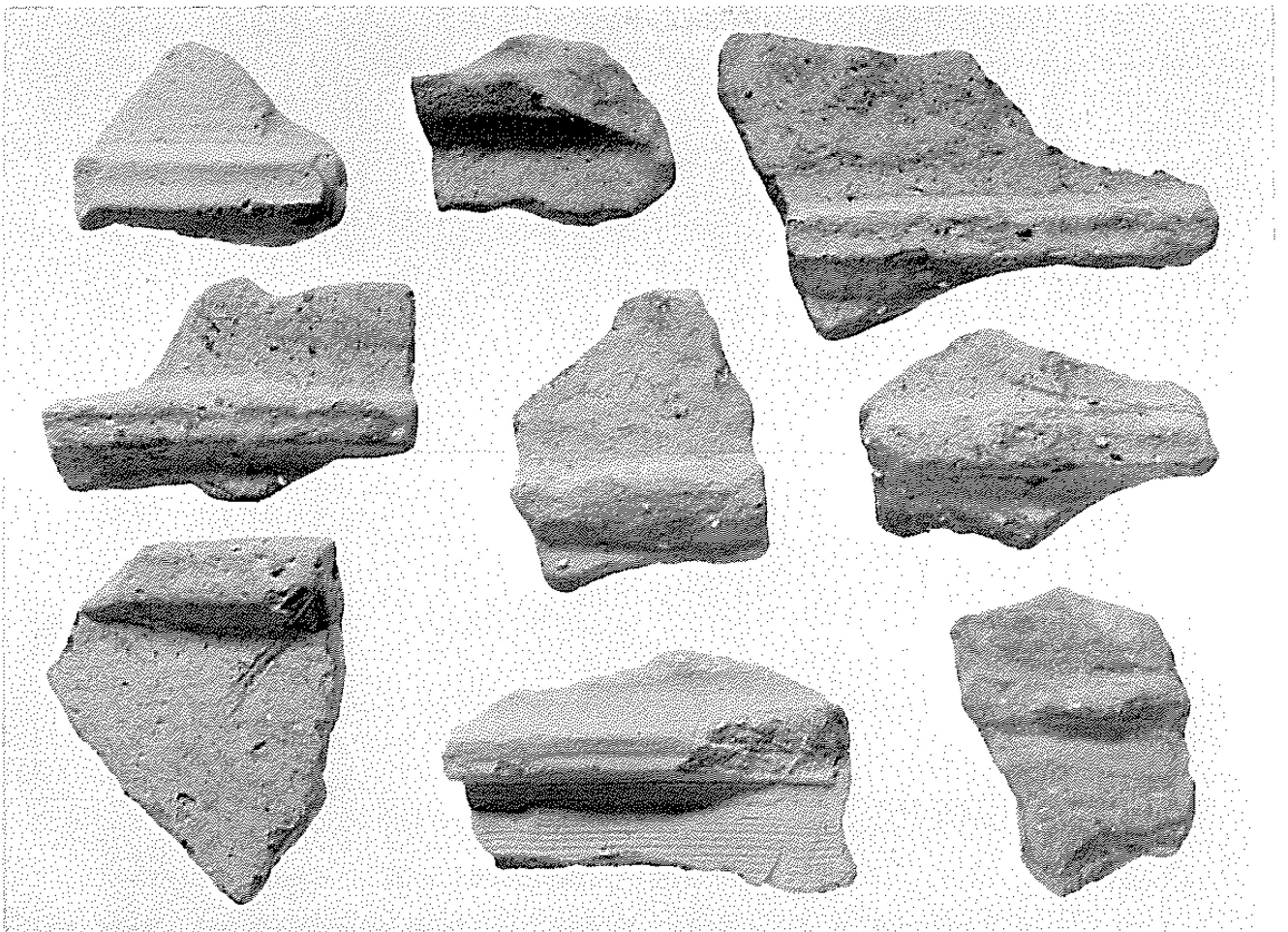
第2-0 トレンチ



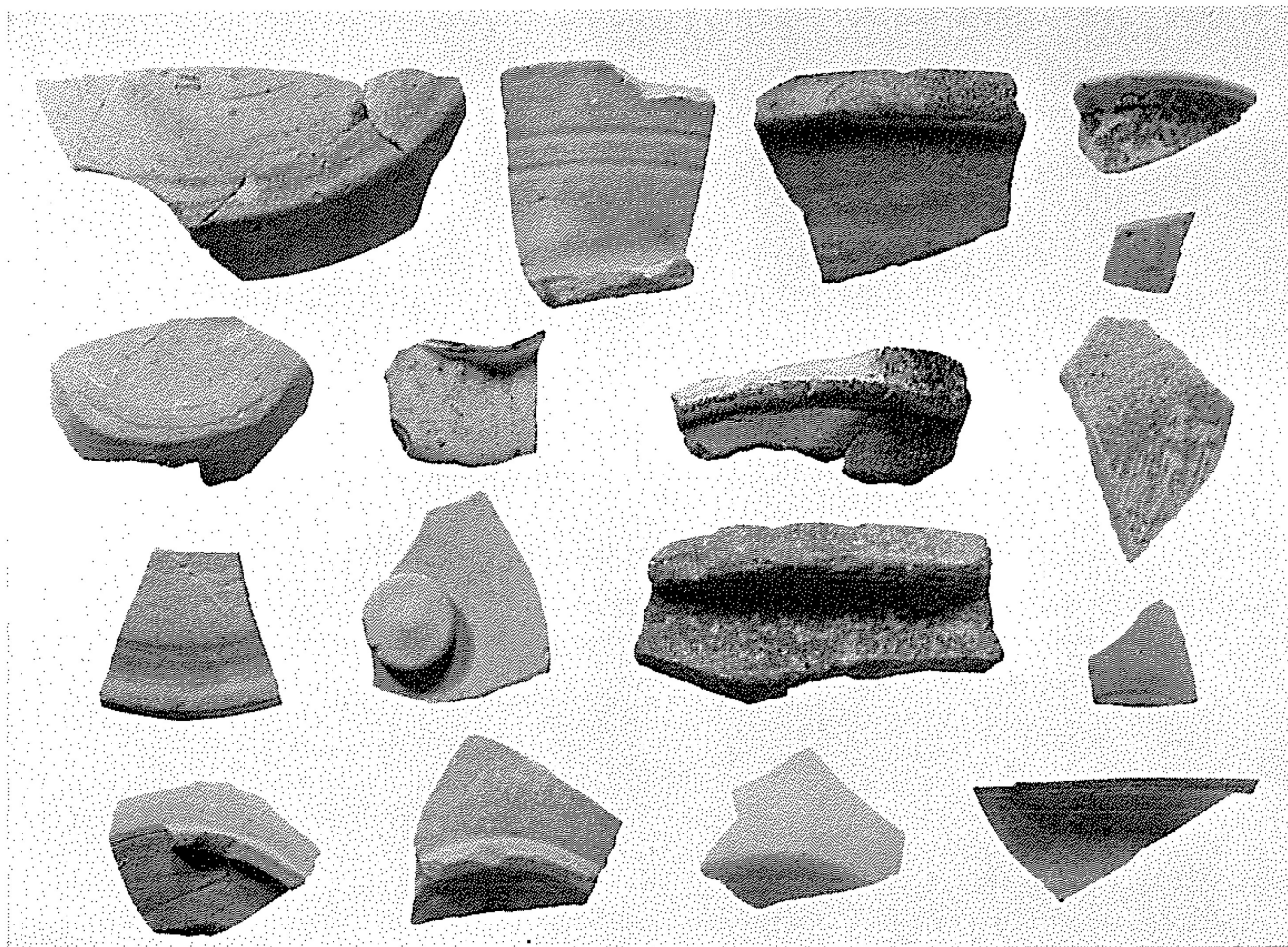
第2-0 トレンチ落込み



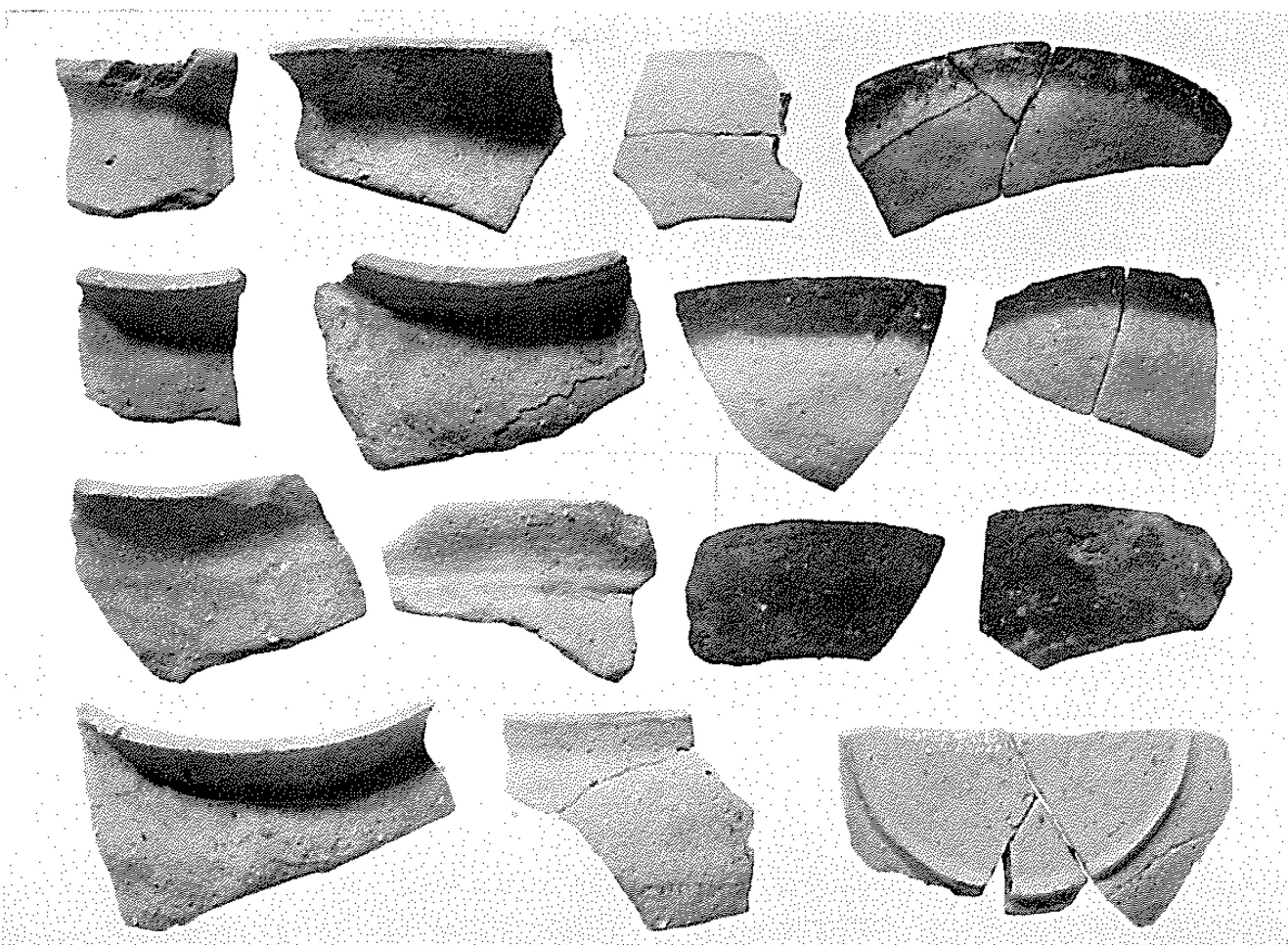
石器類



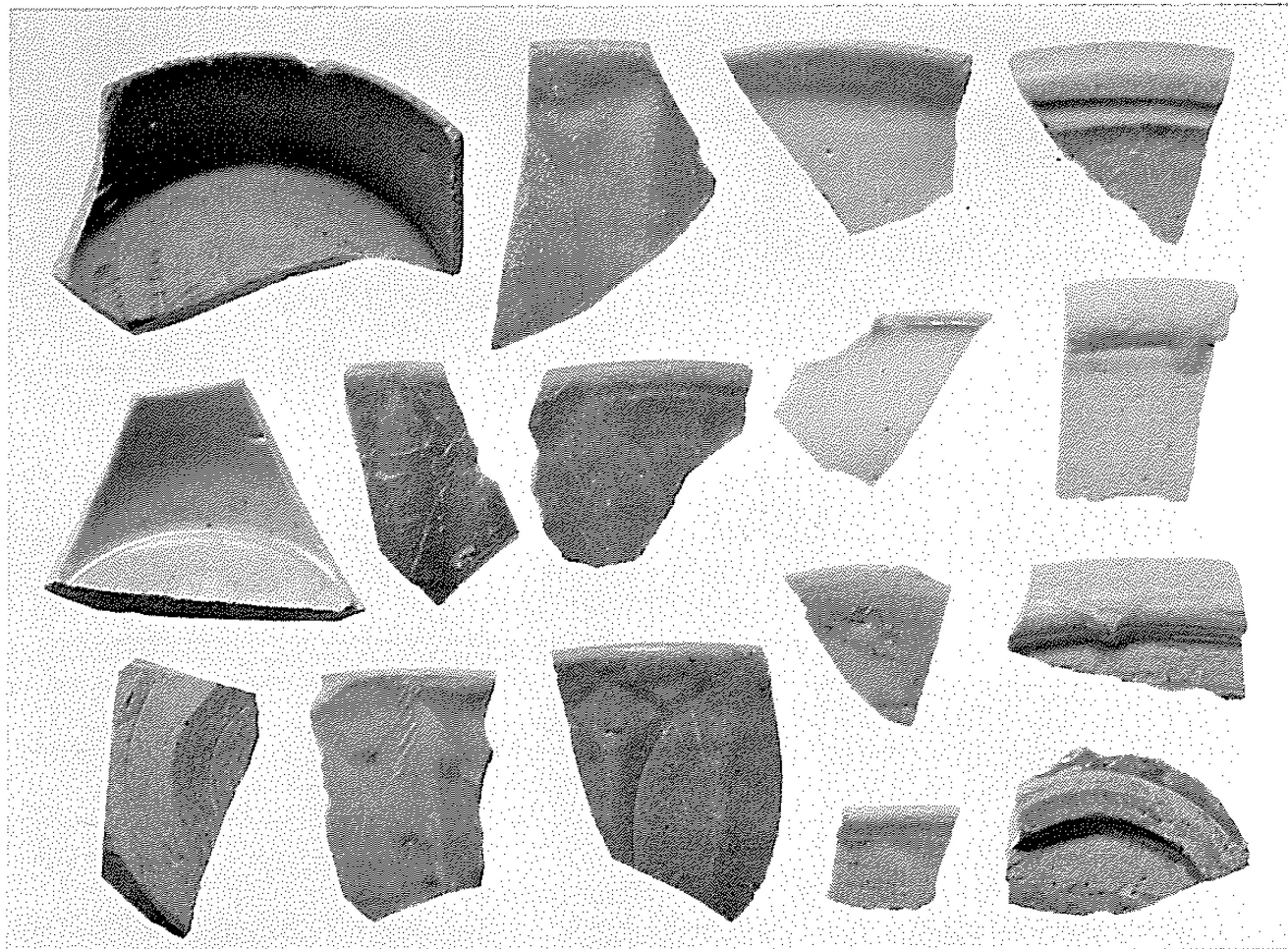
埴輪



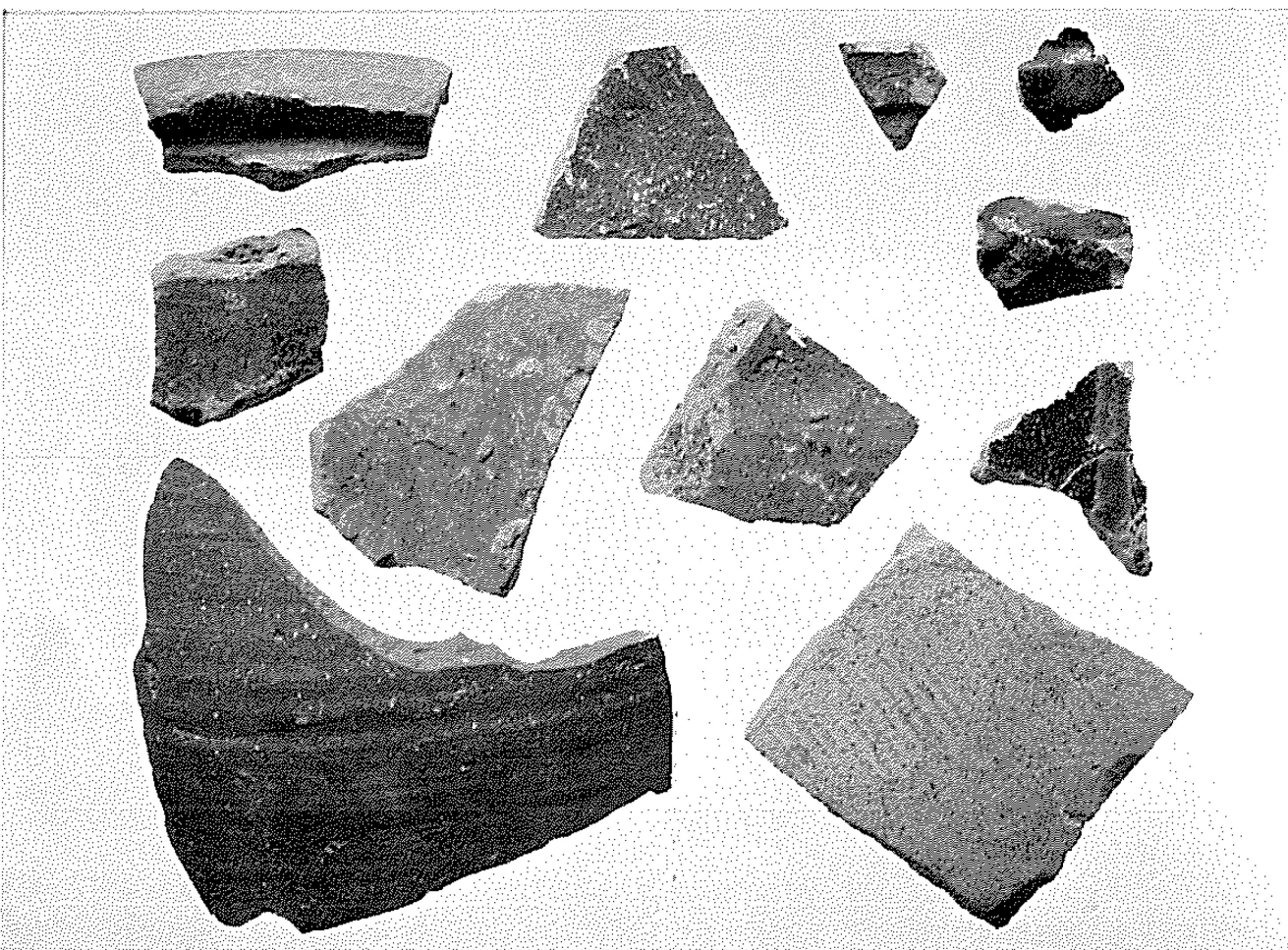
須恵器



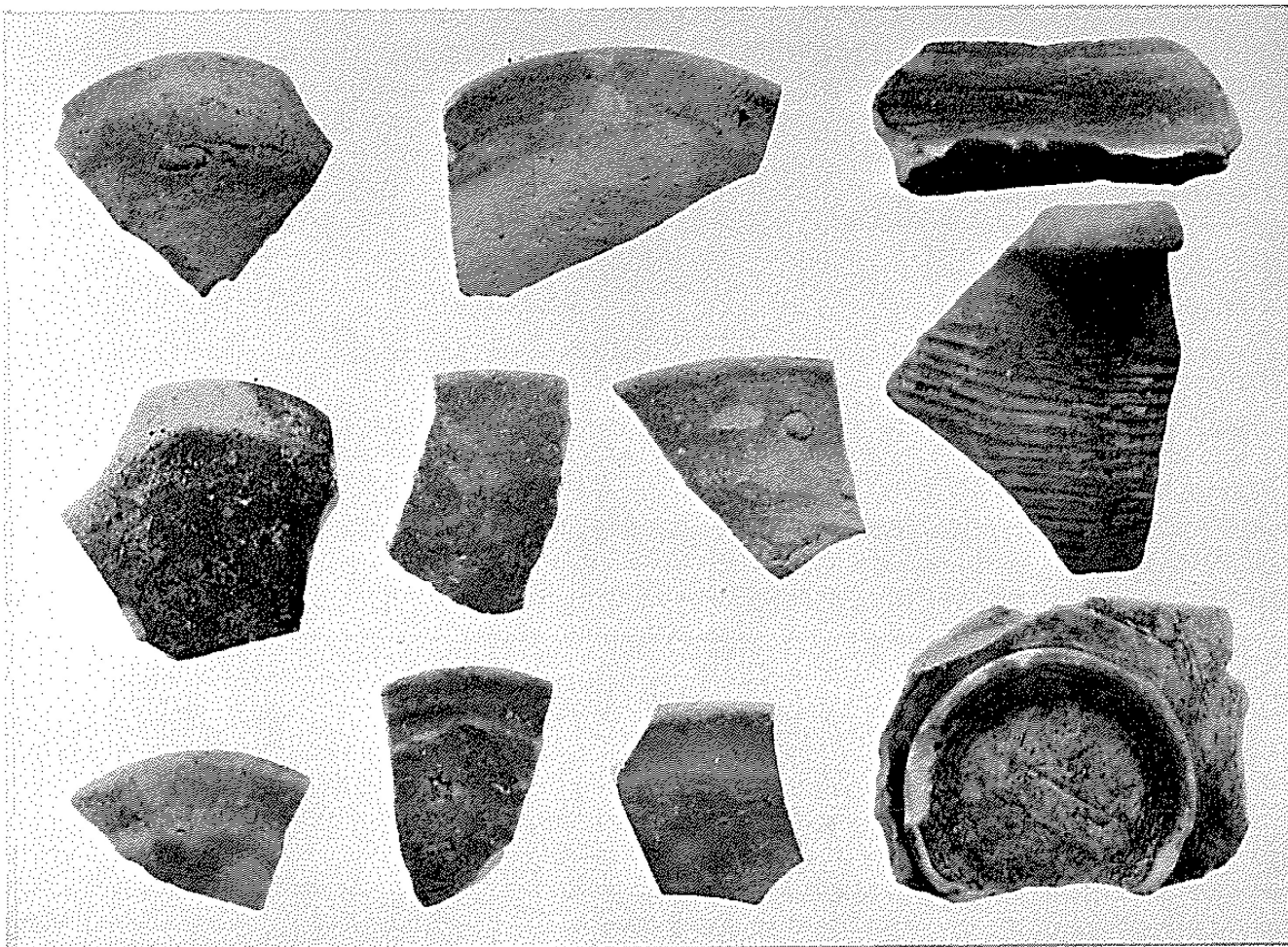
土師器、黒色土器



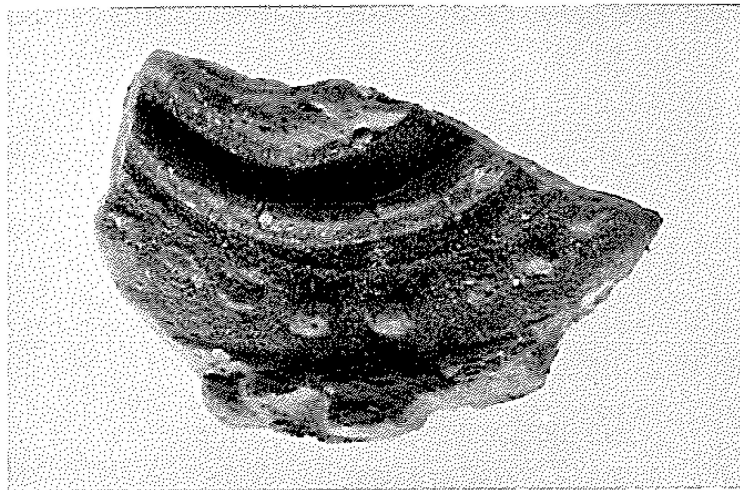
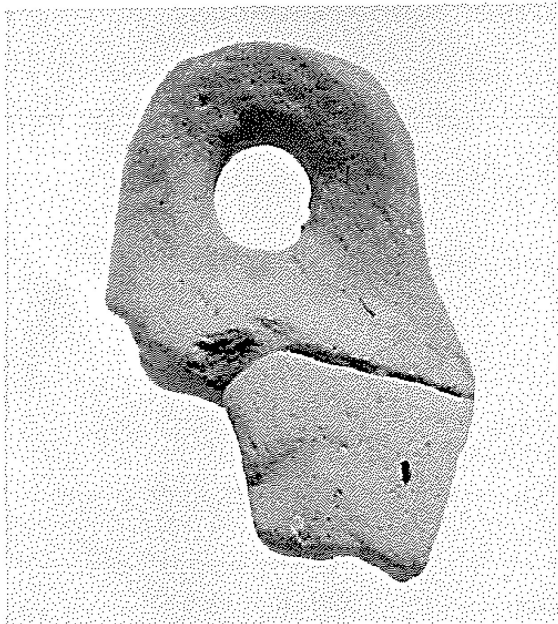
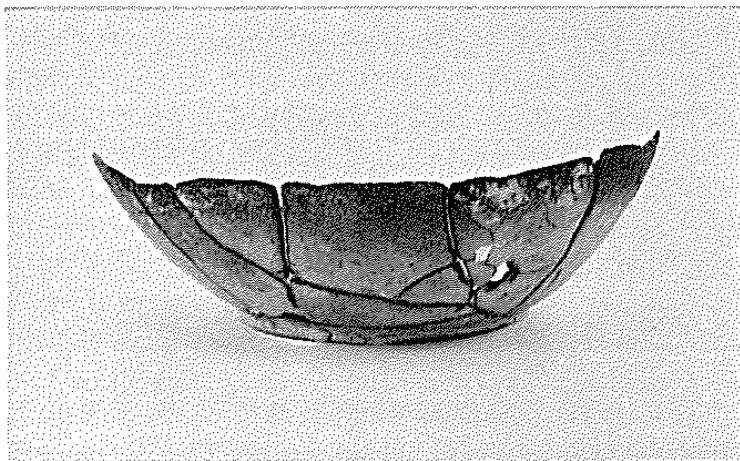
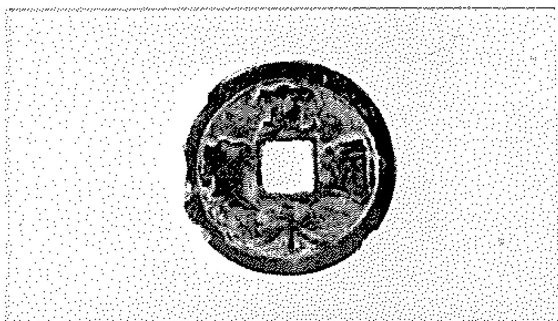
青磁、白磁



中世陶器



瓦器



瓦、黑色土器、蛸壺、錢